

速報

とちぎっ子学習状況調査結果（下野市の概要）

平成26年7月
下野市教育委員会

平成26年度とちぎっ子学習状況調査の下野市の結果は、小学校(国語、算数、理科)、中学校(国語、社会、数学、理科、英語)ともにすべての領域で県の平均正答率を上回る結果となりました。

とちぎっ子学習状況調査

- 「基礎・基本」の問題
- 「思考・判断・表現」の問題
- ◇国語の領域（小・中）「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
- ◇算数の領域（小）「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
- ◇数学の領域（中）「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

児童生徒質問紙調査

- 質問数 小学校は108問、中学校は113問
- 回答方法 4つから選択
- 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容（違いは、社会と英語に関わるもの）
 - 基本的な生活習慣 ○目標、達成感、長所 ○学習・テレビ・ゲーム時間
 - 家庭でのコミュニケーション ○関心・意欲・態度 ○規範意識・道徳性
 - 教科・学習の取り組み ○解答時間 等

とちぎっ子学習状況調査結果 下野市と県平均との比較

- 基礎＝「基礎・基本」の問題、思考＝「思考・判断・表現」の問題
- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）
- ー同じ（±1ポイント未満）
- ▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校4年	平成26年度	小学校5年	平成26年度	中学校2年	平成26年度
国語 基礎	○	国語 基礎	○	国語 基礎	○
国語 思考	○	国語 思考	◎	国語 思考	○
算数 基礎	○	算数 基礎	○	社会 基礎	○
算数 思考	○	算数 思考	○	社会 思考	○
理科 基礎	○	理科 基礎	○	数学 基礎	○
理科 思考	○	理科 思考	○	数学 思考	◎
				理科 基礎	○
				理科 思考	◎
				英語 基礎	○
				英語 思考	○

とちぎっ子学習状況調査結果 下野市と県平均との比較 【H26 領域別比較】

◎大きく上回っている（5ポイント以上）

○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校国語	4年	5年	小学校算数	4年	5年
話すこと・聞くこと	－	○	数と計算	○	○
書くこと	○	◎	量と測定	○	○
読むこと	○	○	図形	○	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	○	数量関係	○	○
小学校理科	4年	5年			
物質・エネルギー	○	○			
生命・地球	○	○			

中学校国語	2年	中学校社会	2年
話すこと・聞くこと	◎	世界の地域構成	○
書くこと	○	世界各地の人々の生活と環境	○
読むこと	○	世界の諸地域	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	－	古代までの日本	○
		中世の日本	○
中学校数学	2年	中学校理科	2年
数と式	○	身近な物理現象	○
図形	○	身の回りの物質	○
関数	○	植物の生活と種類	◎
資料の活用	◎	大地の成り立ちと変化	◎
中学校英語	2年		
聞くこと	－		
読むこと	○		
書くこと	◎		

1 小学校のとちぎっ子学習状況調査結果について

国語は、県の平均正答率をすべての領域も上回っていました。特に、国語では、4領域の内「書くこと」が4年生で3ポイント程度、5年生で7ポイント以上上回っていました。

算数も県の平均正答率をどの領域も上回っていました。しかし、算数5年生の「図形」においては、わずか0.3ポイントの上回りとなりました。理科4年生は、「物質・エネルギー」で3ポイント程度上回っていました。理科5年生は、「物質・エネルギー」、「生命・地球」の2領域で3ポイント程度上回っていました。

2 中学校のとちぎっ子学習状況調査結果について

全教科において「基礎・基本」と「思考・判断・表現」の問題ともに、県の平均正答率をすべての領域で上回っていました。

国語は「話すこと・聞くこと」で、5ポイント以上上回っていました。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ではわずか0.3ポイントの上回りとなりました。社会は「中世の日本」で5ポイント程度上回っていました。数学は「資料の活用」で、5ポイント以上上回っていました。理科は「植物の生活と種類」「大地の成り立ちと変化」で、6ポイント以上上回っていました。英語は「書くこと」で、6ポイント程度上回っていました。

3 小・中学校の児童生徒質問紙調査結果について

県の児童生徒質問紙調査の結果は、小学校4年生では、108項目中49項目で県平均を上回っていました。小学校5年生では、108項目中68項目で県平均を上回っていました。中学校では、113項目中69項目で県平均を上回っていました。

小・中学校とも共通して、「家での宿題の実施」「友達の意見や話を聞く」「朝食」「学校の準備」「ものごとを最後までやり遂げる」「人と話すことが楽しい」「各教科の学習における興味関心」等について、よい傾向が見られました。

また、小学校では「将来に夢や希望」「自分は家族の大切な一員」「ボランティア活動に参加」により傾向が見られました。中学校では「家でのテストのやり直し」「授業で話し合い活動」「国語・美術が好き」「辞書を使う」により傾向が見られました。

今後、この結果を分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。